

犬神十家紋

木村 守一

横溝正史「犬神家の一族」が、映像化の機会に非常に恵まれた作品であることは間違いないだろう。その最大のきっかけは一九七六年の角川映画（石坂浩二主演）で、以降いくたびもメディアでの再話が繰り返されてきた。日本語ウイキペディアその他によれば、その蓄積はおおよそ以下の通りである。

映画…

- ① 『犬神家の謎 悪魔は踊る』
一九五四年八月一日公開 片岡知恵蔵主演
 - ② 『犬神家の一族』
一九七六年一月一日公開 石坂浩二主演
 - ③ 『犬神家の一族』
二〇〇六年二月一六日公開 石坂浩二主演
- テレビドラマ…
- ④ 『着いけものたち』

日本テレビ「火曜日の女シリーズ」

一九七〇年八月二十五日～九月二十九日、毎週火曜日二二時三〇分～二二時三六分 全六回

⑤ 『横溝正史シリーズ1 犬神家の一族』

TBS 一九七七年四月二日～四月三〇日、毎週土曜日二二時～二二時五五分 全五回

金田一耕助役 古谷一行

⑥ 『横溝正史傑作サスペンス 犬神家の一族』

テレビ朝日 一九九〇年三月二七日、一九九二年三月二十一日
四八分 全一回

金田一耕助役 中井貴一

⑦ 『横溝正史シリーズ5 犬神家の一族』

フジテレビ「金曜エンタテイメント」一九九四年一月七日、
二二時〇〇分～二二時五二分 全一回

金田一耕助役 片岡鶴太郎

⑧『金田一耕助シリーズ 犬神家の一族』

フジテレビ「プレミアムステージ」二〇〇四年四月三日、

二二時〇〇分～二二時五四分 全一回

金田一耕助役＝稲垣吾郎

⑨『犬神家の一族』

フジテレビ 二〇一八年二月二四日、二二時三〇分～三

時三三分 全一回

金田一耕助役＝加藤シゲアキ

⑩『シリーズ・横溝正史短編集Ⅱ「金田一耕助踊る！」犬神家の一族』

NHKBSPレミアム 二〇二〇年二月一日、二二時三〇分

～二二時〇〇分 全一回

金田一耕助役＝池松壮亮

演劇…

⑪『犬神家の一族』劇団ヘロヘロQカムパニー第三四回公演

二〇一七年四月二三日～三〇日 全労済ホールスペース・

ゼロ

⑫『犬神家の一族』劇団新派 百三十年記念公演

二〇一八年一月一日～一〇日 大阪松竹座

二〇一八年一月一日～二五日 新橋演舞場

漫画…

⑬『犬神家の一族』

つのだじろう作画 秋田書店 秋田コミックスセレクト

一九八四年三月一日発行

⑭『コミック横溝正史 金田一探偵シリーズ1 犬神家の一族』

いけうち誠一作画 講談社 一九八四年五月一日発行

⑮『犬神家の一族(上下巻)』

JET作画 角川書店 あすかコミックス 一九九九年九月一七日発行

⑯『名探偵金田一浩介の事件簿 犬神家の一族』

長尾文子作画 秋田書店 サスペリアミステリーコミックス 二〇〇四年一月一九日発行

⑰『犬神家の一族』

小山田いく作画 月刊ホラーM 平成一六年七月号

これらの作品は、小説とは異なるメディア表現の制約と、個々の作者の自由なアレンジとがあいまって、互いに相違する点は少なくない。映像表現、キャストインク、物語設定などを比較考察していけば有意義な考察はいろいろ引き出せるだろうが、ここでは私の最大の関心事のひとつである家紋について述べていきたい。前述の十七作品のうち私が実作品の内容に触れたのは①④⑭⑰以外の十三作品で、さらに角川文庫『犬神家の一族』表紙カバー装画二種類を加えると、犬神家の家紋の実物の表現は実に十種類を検出することができた。横溝正史の原作では犬神家の家紋について特に言及がないことを考えると、

これらの家紋には各映像作品の作者の意図が自由に反映されている可能性が高いだろう。それぞれの作者たちが解釈した犬神家という家のイメージが家紋のデザインに端的に表現されるわけで、架空の家紋は十分に鑑賞と検証の対象になるのである。

フランスの紋章学者ミシエル・パストゥローは、中世・近世欧州の紋章鑑に見られる架空の紋章について、色彩や図柄の持つ象徴性が現実で使用された紋章におけるよりも純粹に表現されていると述べ、その研究の意義を強調した。本稿はそのささやかな模倣を試みる程度のものである。

なお、犬神家の家紋については先行する研究がある。山本千壽「家紋表現に見る「犬神家」の考察」映像作品を中心に、『金田一耕助自由研究 vol.3 《特集》犬神家の一族』神保町横溝倶楽部 平成二十七年八月十四日初版発行 五九―六九ページ

がそれである。題名から、本稿とかなり近い趣旨の論考だと思われるが、残念ながら私はこの山本氏の研究に接する機会を現時点まで得ていない。明らかな先達の、それも架空紋章学に関する日本語での貴重な実践例に触れないまま話を進めるのは気が引けるし、倫理的にも問題がありそうに思うのだが、少数部の同人誌に発表された文章を入手できるか否かはほぼ運次第であり、やむを得ない。山本氏と読者諸氏のご寛恕をお願いする次第である。

以下、年代順に犬神家の諸家紋について触れていく。家紋の

描法として黒地に白のものと白地に黒のものが混在しているが、これは家紋作図の際に参照した作品の中で印象的な用例に従ったもので、特別な意図はない。また、いわゆるネタパレへの配慮はしない。

第一図 一九七六年角川文庫表紙第二種版



初出はイラストレーター・杉本文氏による角川文庫版カバー装画である。

杉本氏による『犬神家の一族』カバー装画には3種類があり、第一図はそのうちの二番目の絵（私の手元にある分では昭和五十一年七月三十日二十版から同年十一月二十五日三十八版までに用いられたのが確認できる）に登場する。遠景に洋館、中景に老人と女性の顔、近景に和装喪服の日本髪の女性、という構図の中、女性の喪服の胸にこの家紋が描かれている。これが市川崑監督により石坂浩二主演の映画（一九七六年・二〇〇六年とも）に流用された。この間の事情については、杉本氏がしばしば講演などで語るところであつたらしく、（https://twitter.com/nokugyo_note/status/507861536623562753他）。

家紋のデザイン上、その異形性は一見して気付かれるところである。中央にある犬とも狐ともつかない細長い動物の顔、左右から中央につながる鬼火か人魂のような模様、いずれも伝統的な日本の家紋には見られない要素である。全体の輪郭も円形や正多角形といった安定した形にはおさまらず、また鬼火のような模様も左右の大きさが非対称であり、やはり日本の家紋の基本的な構図を逸脱している。この左右の非対称性については、杉本氏の絵の喪服の女性は左斜め前から見た構図で描かれているため、本来はその遠近法の表現に由来する歪みだと考えられるが、市川崑監督はその遠近法上の歪みを補正しないまま家紋を映画に流用したことになる。

この異形の紋のデザインの意図は、やはり犬神家の「犬神」に焦点があるだろう。中央の動物の顔は、民俗学文献で憑物としての犬神がしばしば細長く尖った顔の動物として報告される

のと一致している。左右にある鬼火のような模様からは狐火という語も容易に連想され、狐もまた憑物とされる代表的な動物のひとつである。横溝正史の原作には、犬神家の人々が憑物を信仰しているような描写はないので、杉本氏は題名の中の「犬神」という語から独自にこの紋を案出したのだろう。

一九七六年・二〇〇六年の映画では、犬神家の主要人物のひとつである松子が自室のタンスの引き戸の中に犬神の図（石見の国学者岡熊臣の著書『塵埃』から採られたもの）を祀っているシーンがあるが、これもやはり原作にはなく、市川崑監督が独自に付加したものである。おそらくは犬神家という家系そのものの持つ闇の部分強調しようとする表現だろう。憑物のおどろおどろしさから着想されたと思しき杉本氏デザインの家紋が映画にそのまま採用されたのは、この犬神崇拝のシーンにつりあつたものと言えるだろう。先述の、左右非対称な形を補正しなかったのも、異形性の強調という点では理にかなっている。

第二図 一九七六年角川文庫表紙第三種版



角川映画『天神家の一族』が一九七六年十月に公開された後、映画ポスター・サウンドトラックLPジャケットとデザインを統一する形で、角川文庫のカバー装画も差し替えられた。これが杉本文氏による『天神家の一族』の三番目のカバー装画である（私の手元にある分では昭和五十二年一月三十日四十版にはこの表紙画が用いられている）。遠景に洋館、近景には赤い背景に和装喪服の日本髪の女性、という構図であり、やはり女性

の喪服の胸に家紋が描かれている。この家紋には前項の二番目のカバー装画と同じものを用いることも可能だったはずだが、杉本氏はそうせずに新しい図柄を書き起こしている。

第一図と第二図を比較すると、中央の細長い動物の顔はほぼそのままだが、第一図にあった鬼火のような模様が細長い左二つ巴に置き換えられている。全体の構図も日本の家紋によくある円形にまとまっており、杉本氏が犬神家の紋をより一般的な家紋の枠に収まるようにデザインしなおしたことが判る。とはいえ、細長い左二つ巴を、尾をたなびかせながら漂う二つの人魂だと解釈すれば、第一図にあつたおどろおどろしさの印象も根強く意図され続けているものと見なせよう。

第三図 一九七七年テレビドラマ版



第三図は、一九七七年のテレビドラマ『横溝正史シリーズ 1 犬神家の一族』（古谷一行主演）に用いられた。

この紋は瓶子紋に犬の字を配したものである。ここに挙げた図は劇中犬神家の中庭に面したガラス戸から採ったもので、瓶子の胴に書かれた犬の字は懸針篆風の書体であるが、犬神奉公会のメンバーの法被の背中に描かれた紋では犬の字が楷書であり、何らかの基準で書体の使い分けが意図されたもの

と思われる。

瓶子は酒を神前に供えるのに用いられる神器のひとつであり、瓶子紋は神社に縁の深い紋である。『犬神家の一族』では、佐清の手形や犬神佐兵衛の書簡などに関係して那須神社が物語の展開に重要な役割を果たすが、一九七七年のテレビドラマではその重み付けが増している。『犬神納経』なるものが那須神社に奉納されている、という独自要素が付加されているのである。『犬神納経』は犬神家の先祖たちの姿を餓鬼たちの悪逆非道の地獄絵図として描いたものであった。瓶子紋の採用はすなわち、劇中での殺人事件の真相を解く鍵に加えて、犬神家の過去の暗黒の部分までもが那須神社に隠された（あるいは託された）のだということを暗示する役割がある、と読み解けよう。第一図がその異形性によって犬神家の過去の闇を直接的に表そうとしたのとは一種対照的な発想とも言えよう。

と同時に、この第三図の紋は犬神という姓から作られた洒落紋 *cutting arms* と見ることでもできそうだ。先に述べた通り、瓶子紋は神社に縁の深い紋であり、これを「神」を表すものとみると、胴に書かれた犬の字と合わせて「犬神」と読み解くことができる。

第四図 一九九〇年テレビドラマ版



第四図は、一九九〇年のテレビドラマ『横溝正史傑作サスペンス 犬神家の一族』（中井貴一主演）に用いられた。紋の図柄は二本の斧・琴柱・菊を組み合わせたもので、劇中の三種の家宝として印象的な斧・琴・菊によるものであることは一見して明らかだろう。具体的な構図は、杏葉菊紋の上半の葉の部分と琴柱に置き換えたものである（『平安紋鑑』ほか、現代参照しやすい主要な紋帖では杏葉菊の花弁数は十四枚

であることから、この第四図の紋の菊が杏葉菊に由来することが判る）。

一九九〇年のテレビドラマは長野県湖澤市犬神町という架空の町を舞台とする。犬神町の産業経済は犬神家に掌握されており、住民たちは犬神家の支配のもと息詰まるような生活を強いられている。さらにこの一九九〇年ドラマ版と原作小説の相違点として、見立て殺人の派手さが挙げられる。若林弁護士が口に菊の花束を詰めた死体で見送られる（原作では煙草を用いた毒殺で、見立て殺人ではない）、佐智は菊の花で飾った鉢で刺し殺された上に斧を打ち込んだ木に琴の弦で吊されている（原作では琴の弦での絞殺のみ）等々。事件に関わる様々な細部で斧・琴・菊が非常に強調されており、こうした演出の一環として、家紋のデザインもまた直截に三種の家宝をかたどったのだろう。

なお一点この家紋の特徴を挙げるとすれば、斧の図像の扱いが気になるところである。伝統的な日本の家紋ではまっすぐな柄を持つ道具を曲げたり変形させたりした形で用いることは少ないが、第四図に用いられている斧は、家紋の円形の外枠に合わせて柄を曲げた形で表現されている。つまり第四図の紋は家紋らしさよりもデザイン上の収まりの良さを優先して組み立てられているわけで、その様態は家紋よりもむしろ現代的なロゴデザインの考え方に近いものだろう。

第五図 一九九四年テレビドラマ版



第五図は、一九九四年のテレビドラマ『横溝正史シリーズ 犬神家の一族』(片岡鶴太郎主演)に用いられた。紋の図柄は隅立て折敷の中に左三つ巴を配したものである。これは三島神社(大山祇神社)の神紋から発想されたものだろう。三島神社の紋は「隅立て折敷に三の字」、つまり隅立て折敷の中に漢字の「三」を配したものであり、この「三」を「三つ巴」に置き換えれば第五図の紋になる。また左三つ巴も神紋に

は頻繁に見られるものであり、第五図は神紋に神紋を重ねたデザインとも言える。

一九九四年のテレビドラマでは、物語の舞台は信州から岡山県香賀美市に改められ、原作小説の那須神社は鏡美神社と改称されている。さらに特徴的な点として、鏡美神社の神紋と犬神家の家紋が全く同一であることが挙げられる。

原作小説では那須神社の野々宮夫妻と犬神佐兵衛の間には非常にドロドロした肉體関係があったが、一九九四年版のドラマではそうした描写は一切なく、鏡美神社の野々宮夫妻と犬神佐兵衛は純粹な恩人と被保護者の関係である。元來無一物の放浪者だった犬神佐兵衛が家を為すにあたり、かつて自分を手厚く支援してくれた鏡美神社の神官野々宮夫妻の恩を記念しようとして神紋を家紋にそのまま用いた、というような事情が推測される。第五図の紋は、デザイン自体も劇中での扱いも、神紋であることの強調が先に立っているとさえそうだ。

なお、現代日本の代表的な紋帖のひとつ『平安紋鑑』では、「隅切り角に三の字(隅立て折敷に三の字)」と「組合角に左三つ巴」が同じページに掲載されている。「組合角に左三つ巴」は、正方形の枠を二つ重ねた八角形の内部に左三つ巴を配したものである。隅立て折敷と左三つ巴が隣接するこのページが、第五図の紋の発想源になった可能性も否定できないだろう。

第六図 一九九九年漫画版



第六図は、一九九九年のJ E T作画の漫画『犬神家の一族（上下巻）』に用いられた。

紋の図柄は細い左三つ巴の中央に動物の顔を配したものと、狐ともとれる細長い獣面が、憑物としての犬神の顔であろうと考えられることは第一図で触れた。巴紋と獣面の組み合わせという点では第二図の影響を受けていることが明らかであるし、三つ巴の採用という点では第五図をも連想させる。また獣

面を「犬」、神紋にもよく用いられる左三つ巴を「神」と読めば、この第六図は犬神という姓に基く洒落紋の構成の可能性もあり、その点では瓶子紋に犬の字を配した第三図に通じるところがある。

第六図の紋自体のデザインについて見ると、全体の輪郭は三つ巴の形作る円形に収まり、巴の頭の三つの玉は獣面の両耳の間と両脇に配置されていて安定した構図である。家紋のデザインとしてもよくまとまっていると感じられる。おそらくは、先行する映像作品における犬神家の諸家紋を把握研究し、それらの総合を意図したのがこのJ E T氏による紋のデザインなのだろう。

J E T氏の漫画作品は原作小説の主な構成要素を外すことなく、しかしスピード感のある魅力的な演出に満ちており、単行本後書きで『犬神家の一族』について「私にとっては特別の思入れのある作品（小説のほうね）です」と述べているだけのことではある。家紋のデザインについても、その思い入れに釣りあうだけの力のこもったデザインであることは間違いない。

なお、今回確認し得た『犬神家の一族』漫画のうち、つのだじろう作画版には家紋の登場するシーン自体が皆無であった。長尾文子作画版では犬神家の人々が紋付きを着て登場するシーンがあったものの、そこでの家紋は単に丸い輪郭で暗示されるのみで、実質的に紋のデザインはなかった。

第七図 二〇〇四年テレビドラマ版



第七図は、二〇〇四年のテレビドラマ『金田一耕助シリーズ 犬神家の一族』（稲垣吾郎主演）に用いられた。

この紋は三つの構成要素からなる。五瓜、何らかの植物、そして「犬神」の二字である。全体的な構図はやや複雑ながら家紋らしさはよく表現されている。

五瓜は比較的ポピュラーな家紋の構成要素であり、内部に他の図柄を配することで多数の派生紋が作られている（織田信長

の「五瓜に唐花」紋は特に有名な一例。「犬神」姓の二字は見誤りようもない。やや古めかしい隸書がかつた書体には、第三図からの影響が何となく感じられる。問題になるのは、五瓜と「犬神」の間にある植物である。

江戸時代のものからいくつかの紋帖にあたってみたが、この植物に一致する、あるいは近似する紋は発見できなかった。犬神家に縁の深い植物から新たにデザインされたものかとも考えた（例えば製糸業＝蚕＝桑、など）が、うまくあてはまるものには残念ながら思い当たらない。ただ全体的な構図や印象は上がり藤紋に似ており、上がり藤の葉や花の細部を棘々しくアレンジしたものであるかに見える。那須烏山藩の領主であった大久保氏の家紋のひとつは「上がり藤に大の字」（第九図にて後述）であり、そこから上がり藤が転用された可能性がある。那須神社——那須——大久保氏——上がり藤、という連想に基いた発想かもしれない。

以上のように、家紋のデザインに不明な点が残るため、二〇〇四年版のドラマにおける家紋の位置付けに関してもあまり確かなことが言えない。物語中の具体的な用いられ方としては、窓ガラスや軒先の提灯といった調度品、紋付きの和服といったあたりで、強い象徴性のある使われ方はしていない。

第八図 二〇一七年舞台版



第八図は、二〇一七年の劇団ヘロヘロQカムパニー第三十四回公演『犬神家の一族』（関智一脚本・演出）に用いられた。デザインは早瀬マサト氏による。

全体の構図は伝統的な家紋の円形であるが、一見して犬か狐と見える、尖った顔と細長い胴の動物が描かれているのが判る。これもまた憑物としての犬神と見て間違いないだろう。憑物ということでは、この動物の尾が四つの房に分かれてい

ることに注意を要しよう。これは単に尾の毛並みを表現したものともとれるが、関東地方で知られる憑物のオサキ狐をも連想させるからだ（「オサキ」に「尾裂」という漢字が宛てられることがある）。やはりこの家紋には、憑物としての犬神のイメージを喚起する第一図からの影響をうかがうことができよう。ただし、ヘロヘロQカムパニーの舞台版は原作小説にかなり忠実で、犬神信仰を示すシーンはないという点に注意を要する。

また、円形に背を丸めた犬神の姿は、するりと身を翻す素早い動きのようでもあり、あるいは胎児のように体を丸めた姿勢のようでもあり、その表現は巴紋の回転を連想させなくもない。とすれば、第二図や第六図における獣面と巴紋の組み合わせも意識されているかに思われる。

こうしたことから考えると、第八図の紋のデザインは、角川文庫版のカバー装画で犬神家の家紋を最初に案出した杉本一文氏への敬意に基づく創作、という性格が多分に含まれているものと思われる。

第九図 二〇一八年舞台版



第九図は、二〇一八年の劇団新派公演『犬神家の一族』（齋藤雅文演出・脚色）に用いられた。

上がり藤に犬の字を配した図柄で、本稿で扱った中では一番家紋らしいデザインと言えよう。江戸時代に下野国那須郡烏山藩を領有した大久保氏の家紋は「那須藤」と呼ばれ、上がり藤に犬の字という図柄である。その犬の字を犬に変えるという最小限の変更でこの第九図の家紋は成立している。劇中の重要な

場所である那須神社から栃木県的那須が連想され、那須を領有していた大久保氏の家紋を少し変更して犬神家の家紋に用いる…という発想であったと推測される。

現在までのところ、残念ながら劇団新派の『犬神家の一族』は映像ソフトなどにはなっておらず、物語内容との関わりからこの紋の位置付けなどを論じることができない。幸い、主にウェブ上の資料から新派版の犬神家家紋が細部まで確認できたため、本稿ではこれらに基き作図したことをお断りしておく（参考文献欄参照）。

第十図 二〇一八年テレビドラマ版



第十図は、二〇一八年のテレビドラマ『犬神家の一族』（加藤シゲアキ主演）に用いられた。

五爪の中に植物の葉が一枚配された図柄で、全体には地味な印象を受ける。五爪が家紋によく用いられるのは第七図です。に述べた通りであるが、その中の植物の葉が何であるか明らかではない。家紋帖の中から探せば、「鬼鳥」が近いようだが細部が一致しない。現実に存在する植物では葡萄の葉に一番似てい

る。葡萄は中近東や欧州では豊穡や繁栄を象徴する植物であり、またワインを連想させるところからも非常に広範囲に用いられる図像であるが、日本の家紋という文脈ではさてどうだろうか。

この第十図の紋は、それ自体が地味であるだけでなく、劇中での扱いもあつさりしている。他のテレビドラマでは犬神家の家紋が細部まで確認できるシーンがいくつかあるのだが、二〇一八年のテレビドラマではそれがない。雪見障子のガラスや和服に家紋が用いられているということを示す以上の使われ方をしていないのである。

『犬神家の一族』にはいろいろな読み方があり得るが、少なくとも昭和の家と遺言の制度に翻弄される人々の物語であることは確かだろう。だが、その家というものの影を、家紋の使用を通じて表現しようという発想が時代とともに薄れてきたのではないかと感じる。

なお余談だが、二〇二〇年のテレビドラマ『シリーズ・横溝正史短編集Ⅱ「金田一耕助踊る！」犬神家の一族』には、私の気付いた限りでは犬神家の家紋が登場しない。『犬神家の一族』全編を三十分で展開するという特異な演出の中で、家の性質を端的・集約的に表現できる家紋という手法が用いられなかったというのは、ひとつの画期ではあるだろう。

参考文献・図版出典一覧

第一図・第二図：

横溝正史『犬神家の一族』角川文庫 昭和五十一年七月三十日二十版
／昭和五十一年十一月二十五日三十八版／昭和五十一年一月三十日
四十版

杉本一文『杉本一文』『装』画集 二〇一七年一月二十五日 有限会社
アトリエサード

『犬神家の一族』映画パンフレット 昭和五十一年十月五日 発行
東宝株式会社事業部

『犬神家の一族』角川映画『THE BEST』ブルーレイディスク
二〇一九年 KADOKAWA／角川書店

『犬神家の一族（二〇〇六年）』DVD 二〇一五年 KADOKAWA
A／角川書店

第三図：

『犬神家の一族』上下巻 DVD 二〇一六年 KADOKAWA
／角川書店

第六図：

JET『犬神家の一族（上・下）』一九九九年九月二十七日初版発行
角川書店あすかコミックス

第八図：

『犬神家の一族』パンフレット 二〇一七年四月二二日発行

劇団ヘロヘロQQカムパニー制作・発行

『ヘロヘロQQカムパニー第34回公演 犬神家の一族』
DVD 二〇一七年 ヘロヘロQQカムパニー

第九図：

十一月新派特別公演『犬神家の一族』ダイジェスト映像
<https://www.youtube.com/watch?v=DRPNr-1A4Y>
劇団新派の女優 鳴原桂氏のTwitter
<https://twitter.com/Cercidiphyllace/status/104738661175193600>
(台本裏表紙に掲載された家紋のアップ写真)

第十図：

二〇一八年二月新聞号外（二〇一八年フィギュアスケート選手権と
『犬神家の一族』、フジテレビ放映の画面広告）

第四図・第五図・第七図：

個人によるテレビ放映時録画資料

その他家紋関連資料：

泡坂妻夫『中の魔力、巴の呪力』二〇〇八年四月二五日発行
新潮選書

丹羽基二『神紋総覧』二〇一六年三月一〇日第一刷発行
講談社学術文庫

森本勇矢著、日本家紋研究会監修『日本の家紋大辞典』

二〇一三年四月二十日初版発行 日本実業出版社

『平安紋鑑 縮刷』昭和十二年九月一日発行 京都染物同業組合紋上
絵部 平安紋鑑刊行部

テレビドラマの個人録画アーカイブから貴重な資料をご貸与
くださったY・Tさんに深く感謝いたします。

2021 9 25

犬神十家紋

犬神十家紋

著 木村 守一

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
